

Title	現代先住民作家から考える米加横断の文学史の可能性： トマス・キングとジェラルド・ヴィゼナーの場合
Sub Title	Native literature of the U.S.-Canada border : a case of Thomas King and Gerald Vizenor
Author	加藤, 有佳織(Kato, Yukari)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>追加・更新すべき文献の整理を行ない、前年度抽出した論点 1) トマス・キングの現実的な米加国境横断の文学的可能性、 2) ジェラルド・ヴィゼナーのコスモポリタニズムについて、両者の作品形式に即して分析したく考え、投稿論文を準備している。国家横断的な先住民作家が、口承文芸を書き言葉による小説に組み込むとき、それはただ先住民の「声」の回復であるだけではなく、もう少し複雑な横断的詩学が生成されているのではないかと現時点では考えている。2年ほどで投稿できるよう、継続して研究をすすめている。</p> <p>After additional research on the social and cultural background of the works of Thomas King and Gerald Vizenor, I am now preparing a rough draft of a paper on their manners of story-telling. I hope to clarify their trans-border poetics which describes cultural and social border-crossing in the mixed mode of written and spoken languages.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000005-20180309

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	文学部	職名	助教	補助額	200 (B) 千円
	氏名	加藤 有佳織	氏名 (英語)	Yukari Kato		
研究課題 (日本語)						
現代先住民作家から考える米加横断の文学史の可能性——トマス・キングとジェラルド・ヴィゼナーの場合						
研究課題 (英訳)						
Native Literature of the U.S.-Canada Border--A Case of Thomas King and Gerald Vizenor						
1. 研究成果実績の概要						
追加・更新すべき文献の整理を行ない、前年度抽出した論点1)トマス・キングの現実的な米加国境横断の文学的可能性、2)ジェラルド・ヴィゼナーのコスモポリタニズムについて、両者の作品形式に即して分析したく考え、投稿論文を準備している。国家横断的な先住民作家が、口承文芸を書き言葉による小説に組み込むとき、それはただ先住民の「声」の回復であるだけでなく、もう少し複雑な横断的詩学が生成されているのではないかと現時点では考えている。2年ほどで投稿できるよう、継続して研究をすすめている。						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
After additional research on the social and cultural background of the works of Thomas King and Gerald Vizenor, I am now preparing a rough draft of a paper on their manners of story-telling. I hope to clarify their trans-border poetics which describes cultural and social border-crossing in the mixed mode of written and spoken languages.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			